

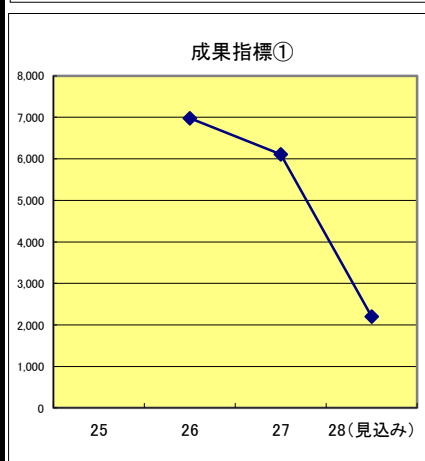
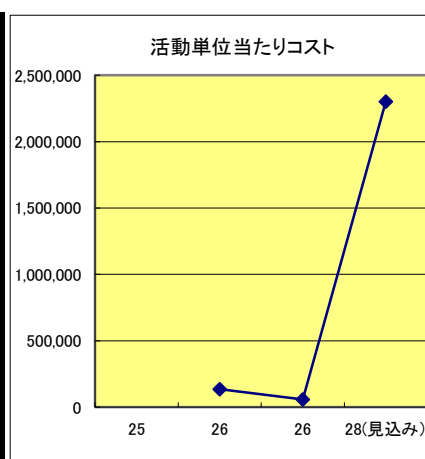
平成 28 年度 事務事業評価シート (平成 27 年度実施事業)

整理番号

市政02

事務事業名			映画製作による地域活性化プロジェクト事業		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち			款	2	総務費
	施策(節)	8	観光振興・都市交流			項	1	総務管理費
	施策の方向	(3)	観光資源・事業のアピール			目	5	企画費
関連する計画等					事業	74	映画製作による地域活性化プロジェクト	
事業の概要(目的・内容)			羽曳野市・藤井寺市・太子町の住民が参加し、地域を舞台にした映画制作への支援等を通じて、南河内ならではの風土、世界文化遺産登録をめざす百舌鳥・古市古墳群やそれらをつなぐ竹内街道といった歴史的資源、豊かな自然環境、特産物など、各市町が有する魅力ある地域資源を広く内外に発信することにより、地域ブランドの向上、地域間の交流、地域活性化及び観光の振興を図る。					
根拠法令等								
事業期間			☐ 10年以上 ☐ 5年以上10年未満 ☒ 5年未満(平成 25 年度開始)					
事業開始時から状況変化			平成26年2月10日に3市町による「羽曳野市・藤井寺市・太子町シネマプロジェクト」を設立。映画『あしたになれば。』の制作支援等を行い、平成27年2月14日大阪で上映開始、同年5月15日全国上映終了。平成27年度以降より映画を市町の観光資源として活用し、イベントを実施して地域の活性化を図っている。					
実施手法			☐ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☒ その他()					
委託先			☐ 市外郭団体委託 名称() ☐ 民間委託 ☐ その他		委託内容			

区 分	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)	0	2,023	500	1,000
人件費【2】 (千円)	2,933	13,215	5,742	5,906
職員数				
正規職員	0.43 人	1.90 人	0.80 人	0.80 人
再任用職員	人	人	人	人
嘱託員	人	人	人	人
臨時職員	人	人	人	人
非常勤職員	人	人	人	人
超過勤務(参考) (時間)	197.0 時間	672.5 時間	144.5 時間	120.00 時間
総事業費(【1】+【2】)【A】 (千円)	2,933	15,238	6,242	6,906
財源内訳				
国庫支出金 (千円)				
府支出金 (千円)				
市債 (千円)				
その他(使用料・手数料等) (千円)				
一般財源【B】 (千円)	2,933	15,238	6,242	6,906
活動指標(事業の活動実績)【C】 単位	25年度	26年度	27年度	28年度 (見込み)
① 映画上映日数(延べ) 日	0	113	109	3
②				
活動単位当たりコスト (【A】÷【C】①) 円	134,850	134,850	57,270	2,301,867
活動単位当たり一般財源額 (【B】÷【C】①) 円	134,850	134,850	57,270	2,301,867
市民1人当たりコスト (【A】÷人口) 円	25	132	54	61
一般財源【B】の推移(前年度比)		419.5 %	▲ 59.0 %	10.6 %
※前年度比5%以上変動している要因(該当する場合のみ)✓	☐ 1. 制度改正・事業の見直しなど ☒ 2. 左記1によらない対象件数などの増減 ☐ 3. 物価・賃金水準などの変動 ☐ 4. 国庫支出金など特定財源の増減 ☐ 5. その他()			
※該当項目すべてに✓				



成果指標 (事業の達成度を測る指標)	指標名	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	① イベント参加者数	人	目標		7,935	8,700
	(式又は説明)	実績			6,976	6,108
	②		目標			達成率(%)
	(式又は説明)	実績				70.2%

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有
								○		

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い（事業の拡充・継続の要望がある、又、活動指標が増加傾向にあるなど）	☐	☐	☒	平成26年度に制作支援を行った映画を活用して、平成27年度より市のPR活動を行っており、平成28年度以降についても継続して地域活性化を図っていく必要があると考える。
		市民ニーズと比較してサービスの対象範囲や水準が適切か	☐	☐	☒	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☐	☒	
		事業を縮小、又は廃止・休止した場合の影響度が大きい	☐	☐	☒	
	効率性	活動単位あたりコストが適切である（経年比較など）	☐	☐	☒	費用面においては、平成26年度の映画制作支援が主となる。平成27年度以降より、市町のイベントにおける映画上映、全国や大阪府で開催される映画関連のイベントへの参加、映画にちなんだドーナツコンテストの開催により新たなご当地グルメの創出を図るなど、効率的・効果的なPR活動を継続して行っている。
		使用料・手数料等の受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☐	☒	☐	
		事業費を削減する余地がない	☐	☒	☐	
		国・府の事業や市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		市の他事業との統合や、事業の簡略化の余地がない	☐	☒	☐	
		民間活力（民間委託、NPO・ボランティアなど）の活用について検討の余地がない（すでに活用しており、拡大の余地はないを含む）	☐	☒	☐	
	協働性	事業の企画や実施にあたり、市民の意見を反映しているか、又、参加、協力が得られているか	☒	☐	☐	ドーナツコンテスト開催にあたって、地域の店舗にコンテスト出場のご協力をいただいた。また、地元イベントと同日に開催することによりPRを図った。
	有効性	成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
	達成度	成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☒ 継続☐ 改善☐ 縮小☐ 廃止・休止 (概ね現行どおり継続して実施) (実施方法の改善を検討する) (事業規模の縮小を検討する) (廃止・休止を検討する)	
	今後に向けて(取組方針・具体的な改善改革案など)	
	映画の劇場公開後、市内での上映会の開催、ロケ地マップの作成、映画にちなんだイベントの実施など地域活性化につながる取組みを行い、当初の目的は一定達成できたところである。今後は、当事業は縮小しつつも、映画制作支援を通じて構築された他市町・地域・事業者等との連携など本事業の成果を、さまざまな施策等に生かし、地域の活性化や観光地域づくりを進めていくことが重要であるとする。	
行革本部評価	総合評価	評価理由・意見
	☐ 継続☐ 改善 ☐ 縮小☐ 廃止・休止	